

喜びの復活日より1週間が過ぎました。コロナウイルス感染拡大により、今年はイースター礼拝を行うことができず、とても寂しい気持ちでいっぱいイースターを私たちは過ごしております。しかしながら今年は主イエスが墓に葬られ、落胆と失望、恐れのうちにご過ごしていた人々の思いを、今年は特に実感することができたのではと思います。例年、私たちは主イエスの復活を既定の事実として受け止め、教会の暦を過ごしておりますので、その意味でも今年は二度とない聖週およびイースターだったような気がいたします。

復活日からの40日間、私達は主イエスが人々の間に現われたことや、天国にお帰りになる前に弟子達に命じた最後の説教、いわゆる訣別説教について学びます。復活節の前半は使徒たちによる主イエス復活証言を、後半は、主イエスの訣別説教について学ぶよう、福音書の箇所が定められています。

さて私たちが祝っている「復活」とはそもそもどういうことを意味しているのでしょうか。復活のものの言葉を調べてみますと、死んでいたものが生き返る、すなわち蘇生するという言葉ではなく、起き上がる、という意味の言葉が使われております。主イエスは十字架にかかられてから3日目に蘇生したというのではなく、3日目に起き上がった、お墓の中に止まっていたはいなかった、死の中から起き上がったということなのです。そして弟子たちが主イエスの復活に与ったというのは、主イエスと一緒に起き上がった、主イエスの十字架によって陥った失意の中から起き上がった、主イエスと共にいた時の喜びが、勇気が再びよみがえってきたということなのです。聖書が伝える復活は、主イエスが蘇生したということではなく、主イエスを葬ろうとする人間の罪から主なる神が起き上がらせた、そして人々も落胆と失望のなかから起き上がったということなのです。さらに本日の福音書の箇所は、それが一部の人々だけではなくて、すべての人に、またそれぞれの人にあった方法で、しかも一度だけではなく、復活の喜びに与るまで何回も体験させてくださった、そして今後も私達が体験し続けるのだということを示しております。

ペトロとヨハネはお墓が空になっていたのを見て信じた、と書かれています。それは二人にとって大きな出来事であり、最初の復活の体験でした。その日の夕方には、二人は他の弟子たちと共に、主イエスと同じように自分達も命を狙われるのではと、ユダヤ人を恐れて隠れておりました。そこへ主イエスが現われて弟子たちは喜びました。この時に主イエスがおっしゃった「あなたがたに平和があるように」という挨拶は、私達が聖餐式の中で用いている「平和のあいさつ」と同じです。これで弟子たちは復活の主の証人に全員がなったはずでした。

ところがたまたまその時にいなかったトマスは、私は信じないと言い張りました。この話を聞くと私達は、トマスは情熱的であったけれども大変疑い深い人間であると思います。しかし私達のうち誰が、トマスを責めることができるのでしょうか。さらに重要なのは、主イエスはトマスにも、またトマスに一番合った形で、ご自身を現されたことです。これでトマスも信じるものとなりました。弟子たちは空になったお墓を見てもユダヤ人を恐れて隠れているような人々であり、他の弟子たちが主イエスに出会ったと言っても信じよう

としない人々でした。主イエスは何回も、それぞれの人に合った仕方でご自身を現され、復活への喜びに招かれたのでした。

本日の福音書の最後のところで、この福音書を書き記した聖ヨハネがその目的について触れています。「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである」。私たちは様々な価値感の中で生きています。その基準は様々でありますし、人によって異なっているのは言うまでもないことです。そして私たちが痛感させられるのはこの世的な存在はすべて有限であり、尽きることのない、朽ちることのない、無限に、そして永遠に存在し続けるもの、価値を見いだすことが出来るものはないということです。聖書の時代の人々もまた、同じ問い掛けの中で生きていたでありましょう。殊にどちらかと言えば非合理的な律法主義と、効率合理主義が渦巻いていた世界だったわけですから、私たちよりその問い掛けは強かったかも知れません。それに対し聖ヨハネは、私たちにこのように伝えているのです。イエス・キリストこそ神の子メシアであり、永遠の命はここにしかないということです。復活の喜びの中でこのことを私たちが学ぶのは大変重要でありましょう。

最後に私達がささげております聖餐式の最初の言葉を思い起こして終わりたいと思います。

主イエスキリストよ、おいでください。

弟子たちの中に立ち、復活のみ姿を現されたように、私たちのうちにもお臨みください。

復活の主が全ての人に宿り、その喜びで満たされますように…。